

グローバルビジネス人材育成事業

～ハーバード流で学ぶ～グローバル・アカデミー in 仙台

キックオフ 開催レポート

- 開催日: 2025 年 10 月 10 日(金曜日)18 時 00 分～20 時 30 分
- 会 場: INTILAQ 東北イノベーションセンター(仙台市若林区卸町 2 丁目 9-1)
- 講 師: グローバルアストロラインズ株式会社 代表取締役 児玉教仁氏
- 参加者: プログラム受講者 23 名

ハーバード 20 年の知見を、仙台で学ぶ特別プログラム

杜の都で、グローバル人材を育成



著名な経営学者であるマイケル・ポーター氏やクレイトン・クリステンセン氏を輩出したハーバード・ビジネス・スクール。世界で最も権威のあるビジネススクールで、20 年間教えた竹内弘高氏が監修・出演する、ハーバード流 self-learning オンライン研修プログラム「グローバル人材育成プログラム by Prof. Hirotaka Takeuchi」が、「グローバル・アカデミー in 仙台」として仙台に初上陸した。

このプログラムは、竹内氏を含めた講師陣による 3 回のリアル講義を含めたブレンド型で完全カスタマイズ型。グローバルなビジネスリーダーを志す仙台・東北地域在住の若者および社会人を対象として行われる。

2025 年 10 月、ついに始動！



そのキックオフとなる第 1 回目の講義が、2025 年 10 月 10 日に行われ、自身もハーバード・ビジネス・スクールの卒業生であり、現在グローバルアストロラインズ株式会社の代表取締役としてグローバルリーダーの育成に取り組んでいる児玉教仁氏が登壇した。

自身を「ノリと呼んでください」と話す児玉氏。カジュアルな雰囲気ではじめた講義では、児玉氏が年間 130 日ほどこうしたセミナーを行っていることや新入社員からエグゼクティブに至るまで幅広い人たちへの教育を行っていることが紹介された。

その後は、アイスブレイクを兼ねて参加者それぞれがグループ内で自分のニックネームを発表し、自己紹介を行った。ユニークなのが、「自分を動物に例えると何か」という項目。その動物である理由を考えることで、自身を客観視するのが目的だ。そのほか、趣味、職業、そしてプログラム参加の目的を共有することで、グループ内で仲間意識を高めていった。

リーダーシップの本質とは？



講師である“ノリ”こと児玉氏は、それぞれのグループセッションの後でリーダーシップの本質について参加者に質問をぶつけた。「主体的に何かを守り抜く精神」「チームワーク」「メンバーの前に立つこと」などの回答あったが、児玉氏は「理想を描いて、そこに向かってひた走る精神」と定義。自分の理想を貫こうとする姿勢がリーダーシップの本質だと説明した。それは「単に人の上に立つことではなく、理想を描いてそれに向かって努力する精神であり、現実を変えていくこと」であると強調。そしてオーセンティック（正真正銘の）リーダーシップにも触れ、「自分はこの人生でこれを成し遂げたい。だから、頑張る」という、“自分の北極星”を見続けて生きていくことの重要性を話した。

また、リーダーシップ開発の最重要要素は「自己認識」であることも説明。自己分析やコミュニケーション改善に用いられる心理学のフレームワークである「ジョハリの窓」における「開放の窓」（＝自分も他人も知っている自己。誰もが認識している性格や能力）を広げること、他者からのフィードバックで「盲点の窓」（＝自分は気づいていない自己）と、そして自己開示で「秘密の窓」（＝自分は知っているが、他人には隠している自己）を縮小することについて話した。

そして、自己認識を高めることがなぜ重要なのかについても説明。オーセンティックリーダーシップの提唱者であるビル・ジョージ氏の言葉を伝え、自己認識を高めることが自己受容につながり、それが自己への慈しみ、最終的に自己実現に至ることを解説。自己認識力を高めることは、リーダーシップだけでなく、人生においても役立つものであると強調した。

また、日本を含む加盟国の経済成長、雇用、生活水準の向上を促進する OECD（経済協力開発機構）の調査を引用し、日本の教育システムでは批判的思考のトレーニングや解決策のない課題に取り組むことを実践している割合が他国に比べてスコアが非常に低いことを指摘した。

自己認識を高めるための、ワークを実施



セッションの後半では、自己認識を高めるためのワークが行われ、参加者たちは事前に作成してきた自分の人生マップを共有。1人約12分(説明8分+質疑4分)を目安に、一歩踏み込んだ自己開示が児玉氏から推奨されると、参加者は自らのバックグラウンドのほか、それぞれが「どのようなリーダーになりたいか」について話してフィードバックをもらっていた。

実際にこのワークを通して、参加者の関係性も向上。うなずきや受容的傾聴を通じて安心安全な場が醸成されているのが感じられた。

児玉氏は、自己開示と他者からのフィードバックを通じて自己認識を高めることの重要性を改めて強調し、参加者たちに環境を自ら作り出すことの大切さを伝えた。

そして最後に、「このグループの絆をぜひ大切にしていきたい。私は自己認識を上げるために、月に一回、4人でZoomに集まり、近況を報告して相手からフィードバックをもらうことをやっています」と話し、参加者にこの関係性を大切に学び、アウトプットしてほしいと伝えた。

次回開催は、2025年12月3日の中間発表。最終発表は、2026年2月19日となる。